

28年度の活動報告

五月七日(土) 総会

第三十五回富田地区社会福祉協議会の総会が、五月七日午後七時より北公民館で開催されました。役員全員で市民憲章・社協憲章唱和の後、会長・顧問・来賓が挨拶され、西尾会長より富田地区で初めて開催した備南ロードレース大会協力のお礼などの話の後、議事に入りまし。前年度の事業・会計報告、次年度の事業計画・会計予算が審議され、原案通り可決されました。また四月に起きた熊本地震に義援金を送る事を議決しました。富田地区の役員様には多くの事業に参加、協力して頂き大変感謝しています。これからも地区の支部長様・各種団体の役員様と共に手を携えて、より良く明るく住みよい富田学区を目指して頑張っていくべきだと思います。ご意見・ご要望は各支部長様までお寄せ下さい。



江南 秀隆

八月十三日(土) 夏祭り富田と消防団

平成二十八年度の夏祭りが盛大に開催され、住民の皆さんの夏祭りへの関心の高さを、また、夏祭りを楽しくもとする意気込みを感じます。消防団もずい分と前から参加の機会を頂いて、寸劇や踊り、下品な宴会芸など、周囲のひんしゅくを感じつつ、やって来ましたが、この祭りの出し物は消防団にとって、なかなか頭の痛い問題なのです。五月の連休明けの部長会から、議題に夏祭りの出し物をどうするかが上がってきます。

私たちまち全部長のブライディングと、重苦しい雰囲気につまれます。富田分団は地域を八つに分けた八部で構成され、各部長がそれぞれの団員を取りまとめます。夏祭りは各部の代表一名ずつで毎年、交替で出演することになっていて、計八名がその年の出し物を練習します。もちろん全員が、ただのおじさんやお兄さん達で、各部とも適当な選抜ですから、難しい事はできません。しかも演出が決まるまでに、一カ月、練習できるのは代表者の都合がつく日を探しながら夜中に一カ月。出来ることにも限界があります。そんな事を何年も続けて来たけれど断られてないのだから、我々の演出は受けている事にして、完全に自己満足でやっていきます。ステージに立たない団員も夜店の列の中で、金魚すくい、ヨーヨーすくいをやって、子供達の人気を集めています。

いづれにしても舞台の上も下も、段取りも大変です。本場に富田の人々は、夏祭りが好きなんです。毎年、来場者が増えている気がします。ステージの上から見渡すとひしひしと感じます。消防団の出し物はここ数年は単純なダンスが続いています。団員の性格上アドリブや、セリフは無理なんです。

「もうすぐ出番や、暑く長い練習から開放される。司会の声がおれ達を呼んでいる。さあ、みんな、いっちょやったろうで」

富田分団 第四部 橋本 昌道



十月九日(日) 体育祭

十月九日(日曜日)に富田地区体育祭が開催されました。前日深夜から降り続いた雨は、見事なほど早朝には上がり、富田小のグラウンドに数カ所の水溜りを残すだけでした。予定通り行なう事になった体育祭は、見る見る内に各地区のテントが、グラウンドを埋めていきます。沢山の子ども達や大人の声がそれに伴って、大会に活気を与えてゆきます。

「バーン」と空高く鳴ったピストルの音と共に始まった競技は、幼児全員による「紅白玉入れ」です。元気がいっぱいに両手に持った紅白のそれの玉が、合図とともに空を飛び交います。六十歳以上男女の「お玉ちゃん」と「デット」は、最初の得点競技なのですが、とても恥ずかしそうに手を繋



ぐ姿は、とてもカワイかったです。北中学校からは、運動部による対抗綱引、グラウンドに穴があくのではないかと云う程の若い盛り上がりで、大会に花を添えてくれました。富田名物の「樽転がし」や「リレーカンダ」は、他の地区には無い楽しく、とても難しい競技です。一般男女による「ムカデ競争」も人気です。花形競技の「支部対抗リレー」大会を締めくくる各支部の鬼気迫るレースは、身応え十分でした。今年の優勝は「亀山ブラック」二位「亀山レッド」三位には「浜県営」が入り、場内惜しみ無い拍手が三チームを包み込みました。最後に、何歳になっても地域みんな楽しんで暮事が出来る体育祭は「宝だなあ」と思います。又、来年も「つかれた」では無く、楽しかった、体育祭を続けて行きたいと強く思いました。秋の空は高く、やさしく僕等を守ってくれていました。

岩谷 尚志

地区名	北川	亀山	滝山	浜県営	道口東	道口西	上郷	池畠	富	安井	谷底	友田	阿原	西川尻	陽海山	畑の前	西川尻
得点	83	74	78	78	95	51	91	11	15	8	16	9	16	6	7	5	6
順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

十一月六日(日) 高齢者のつどい

去る十一月六日(日)富田小学校体育館で「第十三回高齢者のつどい」を多くの参加者で賑やかに開催いたしました。午前は、岡山県笑いヨガ代表の万代京央子先生をお迎えして「健康は笑いから」の演題でお話していただきました。実践を交えながらの話で、日頃あまり笑うことがなくなつた高齢者が、先生の指導で元気な笑い声を体育館中に響きわたらせ、楽しい講演となりました。笑いには免疫力アップにつながります。しっかりと大きな声で笑いましょ！それから可愛い女の子達によるダンスや本場下津井節を堪能し、富田ケアンターと保健師の健康講座で学び、あつという間に昼となりました。昼食は、巻き寿司とけんちん汁でした。この秋は野菜が高騰し心配しま

したが、例年通り具だくさんの汁が出来上りました。おかわり続出であつという間に鍋が空っぽになってしまいました。午後は、劇団たんぽぽ座による、芝居、歌、おどりなど盛りだくさんの二時間オンステージを楽しみました。笑ったり泣いたり共に歌ったりと楽しい楽しいステージでしたが、途中おやつタイムを取り、温いお茶と二種のパンをいただきました。あたたかくなりました。帰りには「楽しかったよ！。又来年も頼むよ」「又来年元気に会おうね」の声・その声に、毎年楽しみにして下さっているんだと、こちらも元気をいただいた一日でした。

富田愛育委員会 東 登志子



十二月十七日(土) 『富田ほつとタイム交流会』を終えて

「皆さん、先ず大きな声で笑いましょ。」と司会者のアナウンスで始まった『第十二回富田ほつとタイム交流会』。十二月十七日富田小学校の体育館は、大勢の高齢者とともにた児童クラブのちびっ子達で大いに賑わいました。振り返れば四年間、富田ほつとタイムを計画して「富田地区の高齢者みんなが元気になるイベント」を計画しよう。との声が上ががり、一昨年やつと開催の運びとなった交流会です。

先ず子ども達が披露してくれた『あそびの発表』は、お手玉・コマ回し・ケン玉等お年寄りがかつて遊んだものばかり。その昔を思い出されたのか、子どもに合わせ手が動いている方も見受けられ、「懐かしいなあ。」と呟く声も聞えてきました。続いてジャンケン大会・綱引きとチーム対抗のトナメント戦。中でも床に座つての綱引きでは、裸足になって床が滑らない様に策を講じる人もいてやる気十分。いざ綱を持つと柔和な顔も一転。何十年も若返ったおじいちゃんおばあちゃんがお互いに、大いに盛り上がりました。お弁当は子ども達と一緒に楽しく美味しくいただきました。子ども達も机を拭いたりお弁当を配ったりと手伝いをしてくれ、その姿に目を細めている方もおられました。そして皆さんの語りには、戦争中の話、子どもの頃の話や今の生活での苦労話等々。目を輝かせながら話をされていたのが印象的でした。



三月五日(日) 吹屋ふるさと村をたずねて

春の香りがただよいはじめた三月五日、午前九時にバスは富田小学校の校庭を出発し、吹屋ふるさと村に向かいました。一年前「ラフウォーク富田」で牛窓を訪ね、小高い丘から牛窓の海を見ながら妻と二人で食事をしたことが思い出されました。二時間ほどで、吹屋ふるさと村の広兼邸に到着しました。さっそく観光ガイドの方の説明を聞きながら、邸内を見学しました。広兼邸は、ベンガラ原料を製造して巨額な富を築いた広兼家二代目が建てた豪壮雄大な建物で、庭には水琴窟があり、竹の筒に耳をかざすと澄んだ音色が聞こえました。しかし、対照的に下男・下女が住む長屋は廁の入口が狭く鴨居も低かったのが印象的でした。当時の人は小柄であったのでしょう。

次に、吹屋銅山跡の笹畝坑道を訪ねました。ここでは、黄銅鉱、磁硫鉄銅(ベンガラの原料となる)が産出され、江戸時代には高瀬舟で高瀬川を下り、玉島港から大阪の銅役所へ運ばれたそうです。笹畝坑道は十の坑道からなっており坑道入口から一番下の坑道まで約三七〇mの高低があるそうです。坑道に入らずに少しくと広い場所に出ました。そこでは、鉱石を採掘していた者、運んでいる者をあしらった人形が置かれ、当時の様子がしのべられました。昼食はレストランでとりました。旅行先での食事は格別おいしかったです。

午後からは、観光ガイドの方の説明を聞きながら、ベンガラ格子の立ち並ぶ吹屋の町並みを散策しました。ベンガラの製造販売を手掛けた旧片山家住宅、郷土館など、当時の吹屋の歴史を知れるうで大変興味深いものでした。名物のお土産を買い、ちよつとした旅の気分を味わい帰路につきました。

午後四時半、バスは富田小学校の校庭に到着しました。今日は小学校の同窓生、趣味の会の友人とお会いしました。また、「ラフウォーク富田」に参加した人とも顔見知りになり、楽しい思い出の一日になりました。お世話をしていただいた方々、大変ありがとうございました。また、来年も参加を楽しみにしています。

今城 新吾

